

平成28年度

那賀町立木頭中学校 「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- ①基礎的・基本的な知識・技能を身につけさせる学習の強化
- ②根拠を明らかにして自分の考えを説明する能力を身につけた生徒の育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 中村恵子
 委員長: 上山恭史 教頭: 久保善信 教務主任: 大岩秀樹 人権教育主事: 齋藤雅人
 第三学年担任・生徒指導・進路指導主事: 長町真一郎 第二学年主任・道徳主任: 仁木賢治
 研修主任・特活主任: 中村恵子 保健主事: 岩佐菜央 給食指導: 阿部祐巳
 助教諭: 石岡幸 井村二千翔 龍田祐貴 福井彩

校長

上山 恭史



(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ	基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができる。	定期テストの、基礎的・基本的な問題の正答率を75%以上にする。	・継続して指導する。 ・提出するためだけに提出物をこなすのではなく、効果的に復習できるように指導する。	①新しく習ったことを授業終わりに小テストにした。 ②T2を活用しながら机間巡視などを多くし、支援を行った。 ③単元が終わるごとに課題を出した。毎時間はできなかった。 ④帰り学活で各定期テストごとに行った。	①その後の支援不足で、テストの点には結びつかなかった。 ②教科によるが、学力向上につながった生徒もいた。実験など。 ③毎時間はできなかった教科もあった。 ④テストで類似問題を出したが、正答率はそれほど高くなかった。
課 題	①読み書きのドリルや小テスト等で、繰り返し学習する。 ②TTや再テストで、学習が遅れがちな生徒の支援を行う。 ③各教科で計画的に宿題を出す。 ④テスト勉強時間を設け、勉強の仕方を指導する。	①②各教科で計画的に行う。 ③5教科で毎授業10分程度の宿題を出す。 ④テスト1週間前から放課後20分間行う。			

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ	自分の考えを、根拠や理由を明らかにしながら説明したり、書いたりして伝えることができる。	「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることができた」と答える生徒の割合を80%以上にする。	・生徒が主体的に発言したり、活動したりできる機会を増やす。 ・行事ごとに感想文を書かせ、表現の機会を増やす。	①道徳で毎時間1人1回は発言させる。1分間スピーチをする。 ②週末課題や宿題として活用した。	①話す活動は少なかったが、意見を言うことへの抵抗感は減った。 ②学年によってばらつきがあった。意識付けをさせると良かった。
課 題	①道徳・特活・総合を含む学習活動の中で、自分の考えを筋道を立てて文章に書く・表現する機会を意図的に設ける。 ②新聞のコラムの感想を書く。	①自分の考えを筋道だてて表現する機会を1週間に1回以上行う。 ②毎週1回行う。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ	将来の夢や目標をもち、主体的に家庭学習や課題に取り組むことができる。	「将来の夢や目標をもっている」「主体的に家庭学習に取り組むことができた」と答える生徒の割合を60%以上にする。	・継続して取り組む。 ・テスト前に、家庭学習時間の個人目標を立て、達成できたかを確認する。	①授業の目標を必ず提示する。はじめ10分を復習にあてる。 ③授業や学校行事、面談を通して、よく考えさせる。学級便りでも、生徒がよく考える機会になるような情報提供をする。	①振り返りはできたが、目標が確認できないこともあった。復習の時間で下学年の内容も思い出すことができた。 ②基礎学力テストの前に自分の学習の特性を考えさせた。 ③教科書の内容を脱せなかった。回数が少なかった。
課 題	①授業の最初に目標の確認、最後に振り返りを行う。 ②家庭学習の手引きを配布し、勉強の仕方を教える。 ③キャリア教育を充実して、将来の夢や目標をもてるような授業を行う。	①目標確認・振り返りを毎時間行う。 ②年度初めに全校集会で行う。 ③1か月に1回は将来の夢や目標を考えさせるような授業を行う。			

平成28年度 学力向上ロードマップ

